

* 会員をはじめ皆様方のおかげで機関紙発行が 200 号となりました。

徳島子どもと教育

徳島県教職員の会

〒771-0017 徳島市川内町鶴島115
黄金ビル 徳島労連事務所内
携帯 080-639-08732
TEL 088-665-6644
FAX 088-665-2117
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp
2015年7月30日 No.200

知事の問題発言に抗議し、撤回を求める

徳島県教職員の会は、6月25日、飯泉徳島県知事に対して、「県総合教育会議」初会合での知事の問題発言に関わっての「要求書」を提出しました。

これは、2008年度から実施された給与カットに対して「一番ブーイングが出たのが教育現場だった」「教員は（自らの）給与を削って子どもたちの事業に（予算を）向けてほしいと言うべきだ」などの知事の問題発言に抗議し、撤回などを求めるものです。



徳島県教職員の会からは、岡田、平岡、喜多の代表世話人3名が県庁を訪れ、徳島県政策創造部総合政策課の副課長に要求書を提出しました。その後、要求書を読み上げ、副課長と課長補佐に対して要求の内容を説明しました。

要求事項は、以下の2点です。

1. 先の「徳島県総合教育会議」での貴職の発言を撤回すること。
2. 発言の趣旨を、徳島県の教育大綱等に反映させないこと。

県側からは、知事の問題発言は、「子どもたちのために（カット分を）使ってほしいという声を聞きたかった」という趣旨であったとの話がありました。これに対して、会側から、「知事がそのように言ったのか」「給与カットは赤字にならないようにするためでなかったのか」などと問いました。その中で、県側は、知事自身がその場で述べたものではないこと、カット分は赤字にならないためであり、そもそも子どもたちのために使える金でないことを認めました。

なお、この要求書提出については、徳島新聞朝刊6月26日付26面で報道されていますので、ご参照ください。

子どもたちを戦場に送らない！ 戦争法案（安保法制）反対の声を 国会へ届けましょう！

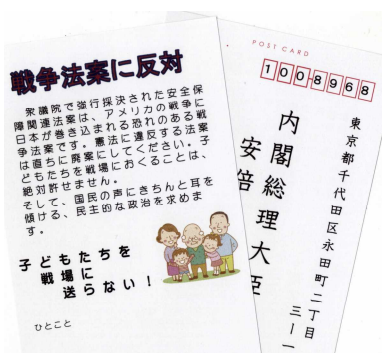
多くの国民が国会周辺をはじめ全国各地で「戦争する国」づくりに反対し、「憲法9条 守れ」と声をあげていますが、安倍政権は、その声を無視し、法案を強行採決しました。この法案は「安全」でも「平和」でもなく、まさに戦争への道づくりであることが、国会審議を通してはっきりしてきました。

昨年7月1日、安倍政権は「集団的自衛権の行使容認」を閣議決定しました。これは、アメリカが起こした戦争に、自衛隊が「戦闘地域」まで行って軍事支援を行う、アメリカの戦争に加担し、日本の若者が血を流すことを認めることです。そして、それを法制化し、いよいよ海外での武力行使を現実のものとしようとするのが、「国際平和安全保障法案」です。それは、安全・平和とは無縁の「戦争法案」です。

この「戦争法案」を無理矢理に通すことは、民主主義の破壊であり、許すことはできません。6月4日の衆議院憲法審査会においては、参考人の3人の憲法学者すべてが「違憲」と指摘しました。にもかかわらず、会期を延長し、強行採決してまで法案を通そうとする安倍政権に対し、今、全国で「戦争法案」反対の行動が巻き起こっています。私たち教職員の会としても、子どもたちを戦場に送らないために、踏ん張るときではないでしょうか。そこで、会員の皆さんに次の行動を提起します。

① **安倍首相に抗議葉書を出しましょう。葉書は同封していますので恐れ入りますが切手を貼ってお出ください。**

② **徳島駅前での街頭宣伝活動に参加しましょう。
毎日 12:30～13:00（他団体との共同行動）**



県母親大会 第1分科会 ～生きづらさを感じている子どもとたちに寄り添って～概要をお知らせします。

第1分科会では、参加者全員が自己紹介と共に、この分科会への参加動機を話すことからスタートしました。次に、助言者の平岡保人(全国障害者問題研究会徳島支部)さんは、長年、特別支援学校で勤めた経験から自分で描いた紙芝居の絵をめくりながら話を進めました。



●9歳の節目について

元気な3歳児がスーパーなどで周りに関係なく泣いている絵から「泣いているのは、自分が主人公になった証拠。他の人は関係ない。だけどこの主人公はまだ穴だらけ」これが3歳半になると、「違いが分かるようになるので、『みんなができるのに自分はできない』という劣等感が芽生える」。次に、自転車と傷ついた顔の絵を使って「4・5歳児は、できないことがあっても心は折れず、何度も挑戦する。きょうは自転車に乗れなかったけれども、明日がんばろうとする。」と「誇り高き4歳児」を説明しました。

続いて、9歳児の話になり、「『スポーツに勝ったらそれでいい』などの大人の狭い価値観を押しつけるのは良くない。負けた相手のことを気遣うなどの大切さをつみ取ってしまう。子どもが自分で考えることが大事」。また、「地球は丸く、太陽のまわりをまわっている、過去に戦争があった、『みんなは自分のことをどう思っているのだろうか?』、自分の将来像など、抽象的なことを思い描けるようになる。さらに、小学校の中学年以降は、親よりも自分が所属する集団を重視するようになる。家族以外の集団は初めての経験で、自信がなく『仲間はずれになっているのでは』と感じやすい。大人は『失敗してもいいんだ。見守っているんだ』と寄り添ってあげ、ありのままの自分が出せる居場所を作ってあげることが大切だ」と話しました。

●子ども集団について

「集団の中で人は人になる。子どもたちを取り巻く集団の環境は、以前は多様性があったが、今の子どもたちを取り巻く集団の環境は、家族と特定の友達だけの集団環境だけになっている。その集団の中で、画一的な考えや価値観に苦しんでいる子はたくさんいるのではないか。多様な集団に子どもが見守られ、いろんな価値観と接したり失敗したりすることが大切。『悩んでいるあなたが好きだよ』と発信することが大切」と話しました。また、「共同作業は大切。『助かったよ』と社会的な賞賛を与えてあげる。いろいろな出番がある『たこ焼きパーティー』はおすすめ。他人を意識をして自分の価値を感じられる。『ソースは〇〇ちゃんにお願い』と役割を与えてあげてください」と紙芝居を駆使し、例をたくさん挙げてわかりやすく話してくれました。

休憩後、質問になり、「親としての子育てに自信がない。どうしたらいいか」の問いに「親もいろんな集団に所属することで『自分は自分でいいんだ。今のままで十分だ』と思えるようになること。また、先生・親の挨拶や笑顔は大人に分かってもらえているというシグナルになる。大人の笑顔は、子どもが新しいことに挑戦しようとするときの力になる」と答えました。

県下の支援学校から寄せられた署名432筆（7月13日現在） ～切実な要求の実現に向けて～

教職員の会が団体加盟している全国組織「障害児学校の設置基準を求め、豊かな障害児教育の実現をめざす会」が呼びかけた署名にこたえようと、会が県下の支援学校に送っていた署名用紙に、5校から合計269筆にのぼる署名が寄せられました。署名は今後も送られてくる見込みで、在籍数の急増問題の根本的解決方法である障害児学校の設置基準策定が、切実な要求であることを裏付けているといえます。

「来年こそ窓のある教室にしてくださいと、保護者から訴えられた」「体育館を学年、学級が複数で使うので『できるだけ体を動かさない体育』をやっている」等、現状の厳しさを記した署名用紙の文言は、県下の障害児学校にも通じることであり、共感を広げる内容だったと思います。また、職場での署名活動に力添えをいただいた支援学校の会員の方々には、紙面を借りて御礼申し上げます。これからも職場の切実な要求にこたえる活動を進めていきたいと思います。会に届けられた署名の第一便（241筆）は、7月8日に東京に発送しました。これからも届き次第発送する予定です。

（特別支援教育ブロック：H）

子どもと教育・くらしを守る徳島県教職員の会 2015年度総会のお知らせ

日時：2015年8月22日（土） 13：30～16：30

場所：coop 住吉

そして総会に来る前に8月22日12：30～13：00

「戦争法」を許さない徳島駅前署名・宣伝活動に参加しましょう！

総会が終わると

納涼会 18:00～「郷里」(徳島市栄町 1-10 TEL088-653-6789)

会費：5,000円飲み放題です。

こちらもぜひご参加を。